

戦略的創造研究推進事業の平成24年度の戦略目標について

平成24年7月11日
 研究振興局基礎研究振興課

1. 戦略的創造研究推進事業について

本事業は、社会的・経済的ニーズを踏まえ、国が定めた戦略目標の下、独立行政法人科学技術振興機構（JST）において研究領域を設定し、組織の枠を超えた時限的な研究体制（バーチャルインスティテュート）を構築して、イノベーションにつながる新技術の創出を目指した課題達成型基礎研究を推進する制度である。

2. 平成24年度の戦略目標について

文部科学省は、毎年、国として対応が不可欠で社会的なインパクトが大きい政策課題を、戦略目標として定める。平成24年度の戦略目標については、以下の5件を決定（平成24年2月10日）し、この目標を踏まえ、JSTでCREST（チーム型研究）及びさきがけ（個人型研究）において研究領域及び研究総括を設定した。

	戦略目標	CREST	さきがけ
		研究領域	研究領域
①	再生可能エネルギーをはじめとした多様なエネルギーの需給の最適化を可能とする、分散協調型エネルギー管理システム構築のための理論、数値モデル及び基盤技術の創出	分散協調型エネルギー管理システム構築のための理論及び基盤技術の創出と融合展開※ ¹ (研究総括: 藤田政之 東京工業大学大学院理工学研究科教授)	—
②	先制医療や個々人にとって最適な診断・治療法の実現に向けた生体における動的恒常性の維持・変容機構の統合的解明と複雑な生体反応を理解・制御するための技術の創出	生体恒常性維持・変容・破綻機構のネットワーク的理解に基づく最適医療実現のための技術創出(研究総括: 永井良三 自治医科大学学長)	生体における動的恒常性維持・変容機構の解明と制御 (研究総括: 春日雅人 国立国際医療研究センター研究所 研究所長)
③	多様な疾病の新治療・予防法開発、食品安全性向上、環境改善等の産業利用に資する次世代構造生命科学による生命反応・相互作用分子機構の解明と予測をする技術の創出	ライフサイエンスの革新を目指した構造生命科学と先端的基盤技術 (研究総括: 田中啓二 東京都医学総合研究所所長)	ライフサイエンスの革新を目指した構造生命科学と先端的基盤技術 (研究総括: 若槻壮市 高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所副所長)

④	環境・エネルギー材料や電子材料、健康・医療用材料に革新をもたらす分子の自在設計『分子技術』の構築	新機能創出を目指した分子技術の構築 (研究総括：山本尚 シカゴ大学教授／中部大学分子性触媒研究センターセンター長・学長付教授)	分子技術と新機能創出 (研究総括：加藤隆史 東京大学大学院工学系研究科教授)
⑤	環境、エネルギー、創薬等の課題対応に向けた触媒による先導的な物質変換技術の創出	低エネルギー、低環境負荷で持続可能なものづくりのための先導的な物質変換技術の創出 ^{※2} (研究総括：國武豊喜 公益財団法人北九州産業学術推進機構理事長、研究総括補佐：根岸英一 米国パデュー大学特別教授／JST総括研究主監)	

※1 異分野連携・融合の実現等のため、始めに、研究期間が2.5年間の小規模チームによって様々な分野の要素技術を研究開発し、その後、それらの研究チームをコアに異分野融合チームを複数再編成し、最長で5年間の研究を推進。

※2 チーム型・個人型の形態を問わず募集を行い、一体的に研究を推進。

3. 今後のスケジュールについて

現在選考中である。研究開始は本年10月を予定している。

【参考】

評価の観点

1. 科学技術基本計画等の国の方針（以下、「国の方針」という。）に合致しており、戦略目標の下で行われる研究が国際的に高い水準にあることを目指すとともに、課題達成のためのイノベーションにつながることを意識したものであること。
2. 戦略目標が関連する分野において、国の方針に基づく文部科学省の政策の全体像を踏まえた上で必要性が認められるとともに、各種調査、審議会やワークショップ等における検討等を踏まえて作成されたものであること。
3. 国内外の研究動向を踏まえた上で必要性が認められること。
4. 基礎研究のフェーズであること。
5. 将来の重要課題の達成ビジョンが具体的にイメージできること。
6. 達成目標、研究の内容、規模が本制度の趣旨に沿うものであること。
7. 他の関連施策と重複がなく、かつ、適切な連携方策について考慮されていること。
8. 特定の機関のみが大半を実施することが想定されないこと。
9. 特定の施設、設備の定常的な運営を伴うものでないこと。
10. 各研究分野において専門家や産業界からニーズが想定され、優れた研究提案が数多くなされると期待できるもの。

戦略的創造研究推進事業（新技術シーズ創出）の概要

1. 目的

社会的・経済的ニーズを踏まえ、国が定めた戦略目標の下、独立行政法人科学技術振興機構（JST）において研究領域を設定し、組織の枠を超えた時限的な研究体制（バーチャルインスティテュート）を構築して、イノベーションにつながる新技術シーズの創出を目指した課題達成型基礎研究を推進することを目的としている。

2. 特徴・概要

政策課題に対応する基礎研究を重点的に推進するために、

- ① 科学技術基本計画等の方針を踏まえ、重点的に研究推進すべき対象を、文部科学省が「戦略目標」として示し、その下でJSTが「研究領域」を設定。
- ② 研究領域ごとに当該分野の第一人者を研究総括（目利き）として選出。研究総括は研究課題を採択するとともに、研究領域内の予算配分、研究計画の調整、研究者への助言を行う等、研究マネジメントを実施。
- ③ イノベーションにつながる新技術シーズを創出し、その後の企業との共同研究等への展開を通じて、我が国の重要課題の達成に貢献。

